

アラウンド・ザ・ワールド 2

Around the World

第105回

長寿リスクとは(後編)

アラウンド・ザ・ワールドPart2の105回目は、長寿リスクを取り上げる。保険会社を含む日本企業が長寿リスクの脅威にさらされている一方で、リスク管理の新たな手法を探求する機会でもある。後編である本稿では、年金受給者へ支払義務を履行しながら、保険会社の財務状況を強化する長寿リスク移転に使用可能な四つのオプションを考察する。

(RGA再保険会社提供)

今年の初め、RGAが日本初の長寿リスク対応再保険として共同保険式再保険を実行したのは画期的な出来事であった。この共同保険式再保険は、保険会社が再保険を通して長寿リスクを移転する選択肢の一つである。長寿リスク移転には他にもオプションがあり、取引の種類を理解しておくことが重要だ。

四つのオプション

前編でも説明した通り、長寿リスクは、人々が予測よりも長く生きるリスクだ。年金受給者の多くが予測を上回って長生きする場合、年金負債

プ、共同保険式再保険、年金リスク移転に分類される。

ファイナンシャル再保険

通常、保険会社と再保険会社の間で長寿リスク対応のためにこの取引が使われることはまれだが、前例がないわけではない。極端な長寿リスクのストレシナリオ等、リスクの一部分を移転するターゲットを絞った取引に使用される。頻度が低く、一般に日本市場には適用されないため、選択肢の一つとして認識すること十分だ。

長寿スワップ

長寿リスクの移転を目的にした形式だが、リスクの一部移転を目標とせず、長寿リスクを全て取り除く。長寿スワップで

不確実性を管理するオプション

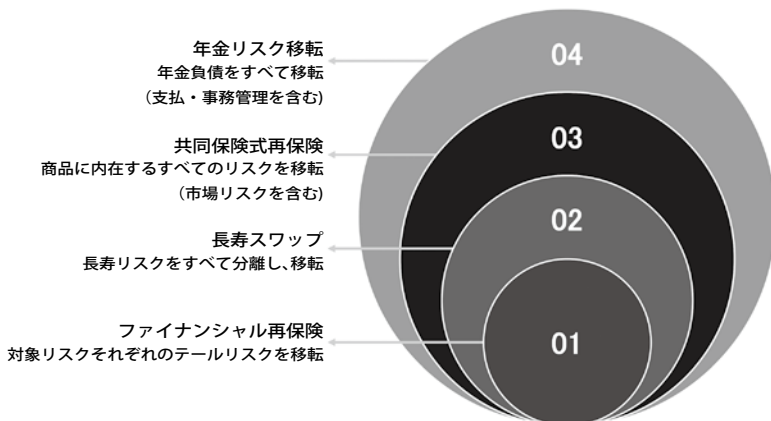


図1 長寿リスク移転の四つの形式

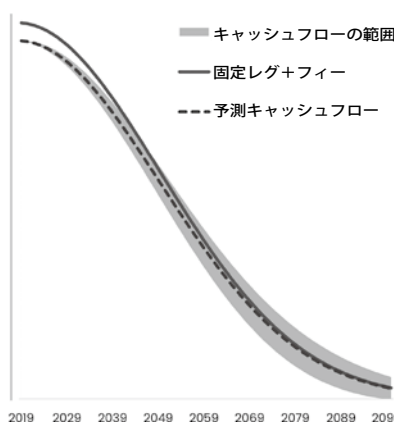


図2 長寿スワップのコンセプト図

で固定する仕組みで、長寿スワップのコストは、通常、フィーとして毎年支払われる。図2は、典型的な年金契約プロットの予測キャッシュフロー(点線)を示す。灰色の部分は、経年による死亡率実績値の改善・悪化に沿った、キャッシュフローの変動範囲を示す。実線は、固定キャッシュ

クが再保険会社に移転し、再保険会社は負債の支払義務を履行するため、責任準備金を積み、一般的に、保険会社は初回再保険料を支払い、再保険会社は代わりに発生した実際の保険金を保険会社に支払う。この再保険形式は、保険会社のニーズや商品に合わせてオーダーメイドで組成可能だ。

年金リスク移転

年金リスク移転は、企業年金に内在した長寿リスクや資産リスクを保険市場へ移転する仕組みだ。大抵の場合、お客さまへの対応や契約事務も移転先の保険会社に引き継がれる。年金のリスク移転市場は、特に英国、米国、カナダ、オランダ

この考察で最も重要なポイントは、長寿リスク移転には複数のオプションがあるということだ。実行する取引の種類、あるいは取引を行うかどうかは、次の四つの力関係によって決まる。

- ①保険会社が「興味関心がある」から「必要だ」へ変わる需要の促進
- ②適切な取引に対するR&D(研究開発)に不可欠なデータへのアクセス
- ③当該地域の法規制の枠組み④各当事者の期待値を集約し、想定範囲内の価格水準を実現—これらの四つの構成要素がそれぞれ数年かけて発展すれば、長寿リスクは多様で効果的な形式で測定、管理、移転可能となる。

◇

日本語監修

日本語訳

執筆

RGAグローバル・ファイナンシャル・ソリューション部門

ヘッド・オブ・インスティテュショナル・マーケット

デイビッド・リポヴィクス

RGAインシュアランスカンパニー日本支店 通訳

山本あゆみ

RGAインシュアランスカンパニー日本支店

エグゼクティブ・ディレクター

ビジネス・ディベロップメント部

新野豊太郎

共同保険式再保険は、包括的なリスク低減のオプションの一つで、フルリスクが移転する再保険取引の仕組みの一つだ。契約ブロックの一部または全部を移転することができる。共同保険式再保険は世界の多数の国々、米国や欧州、最近では日本といった、数々の地域で一般的に用いられ、年金や退職年金も対象になる。共同保険式再保険では、保険会社が引き続き契約事務を担うが、長寿リスクや投資リスク等、任意の出再割合分のリス

【リポヴィクス氏のプロフィール】グローバルな年金リスク分野で10年を超える経験を有する。欧州地域のビジネス開発では、英国の保険会社や年金基金に対する長寿リスク対応再保険や資産リスク管理の大規模な取引を成功させた。現在は米国をベースに年金リスク移転や長寿リスク管理のビジネスを管轄する。